日本金属プレス工業協会　2026 年度第 2 回 「DX 工場見学会」

Ｊマテ.カッパープロダクツ㈱・㈱カワイ精工
地域連携によるレガシー化した基幹システム更新の取組み

主催：（一社）日本金属プレス工業協会

協賛：（一社）型技術協会、（一社）素形材センター、（一社）日本金型工業会、
（一社）日本金属熱処理工業会、（一社）日本塑性加工学会、（一社）日本ダイカスト協会、
（一社）日本鍛造協会、（一社）日本鋳造協会、株式会社第四北越銀行、頸城自動車株式会社

新潟県上越市内で原料溶解・加工・銅合金製品までを一貫製造、DX を推進するＪマテ. カッパープロダクツと、精密プラスチック金型の設計・製作・販売に加え、システム開発事業を立ち上げているカワイ精工。両製造業が協力し培った知識・ノウハウを基に、レガシー化した基幹システムの新規開発を行った。今後は企業に寄り添った地産地消の DX を促進して地域経済の強化を目指すという。

システム開発の要件定義から始め、デジタル技術を活用した「現場の見える化」「工程間の繋がる化」をスモールスタート、そして「基幹システムの更新」、これら一連の取組みは中小企業の DX 推進のモデルとなろう。その基幹システム更新の取り組み方、生成 AI の活用方法など現場を見学しながら学んでいただく。

※簡単な事前アンケートがあります。ご協力をお願いいたします。

〔開催日時〕　2026 年 9 月 15 日（火） 12:30～16:05

〔見 学 先〕　Ｊマテ.カッパープロダクツ㈱　精機工場
（住所　新潟県上越市頸城区西福島 522-2）
※㈱カワイ精工は上記工場 2 階にて展示・説明です

〔総合司会〕　元湘南工科大学　片岡征二

〔プログラム〕

(1)　11：40　JR 上越妙高駅　（送迎バスにて移動、昼食*を済ませ工場へ）※直行も可能です

(2) 12：30～12：45　名刺交換・開会あいさつ

(3) 12：45～13：00　「Ｊマテ.カッパープロダクツ/カワイ精工　DX 取組み紹介」Ｊマテ/カワイ精工講演

(4) 13：00～14：35　2 班編成とし、下記の 2 つのセッション（それぞれ 45 分）を交代で受講
①「カワイ精工」DX 取組み紹介：AI エージェントによる社内システム開発実例
カワイ精工
②「Ｊマテ」工場見学：カンとコツの見える化、生成 AI 活用による「ナレッジ」実例紹介他
Ｊマテ.カッパープロダクツ

(5) 14：35～14：50　休憩・意見交換

(6) 14：50～15：35　「IT システム開発は要件定義が大きなポイント」
ユーザ企業とベンダーとがシステム開発の認識をすり合わせる「要件定義」がシステム開発の成否を分ける。そのすり合わせの状況を、実例を基に両社で解説する。
Ｊマテ. カッパープロダクツ・カワイ精工共同講演

(7) 15：35～16：05　「総合討論・質疑応答」

16：05　閉会　16：15 送迎バスにて上越妙高駅※へ）※16：55 頃着予定

※駐車スペースには限りがあり、ご用意できない場合がございますので、お早めにお申込ください

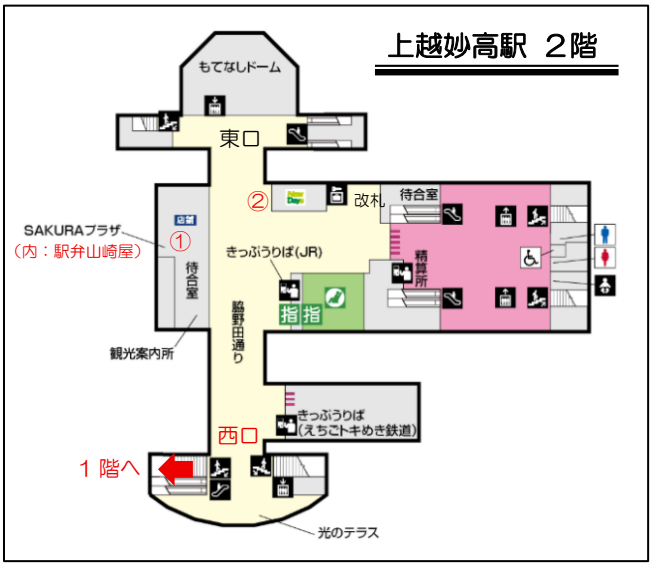
＊ 行程の関係上、早めの昼食になるかと存じます。
各自ご用意いただき、お昼食をお済ませください（移動中にお召し上がりいただくことも可能です）。
また、上越妙高駅でご購入いただく場合、お店が限られておりますのでご注意ください。
弊協会事務局調べで把握しているお弁当等のご購入可能場所は、参考資料をご確認ください。

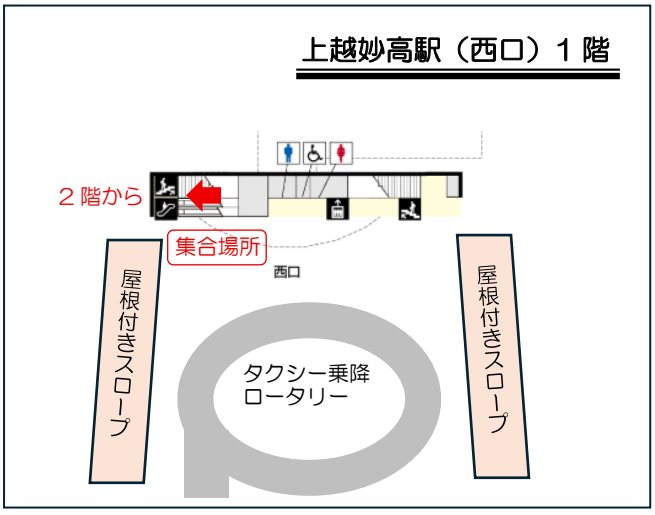
【募集要項】

◆定　　員　40 名（先着順）
◆参 加 費　主催及び協賛団体会員：8,800 円（税込み）
◆お 申 込　下記 URL、または右記二次元コードよりお申込ください
【申し込みフォーム】
https://forms.office.com/r/YuhPMhurcr
◆締　　切　2026 年 8 月 25 日（水）　※9 月上旬にご請求書を発行予定
◆注意事項
・お申込は、本協会会員と協賛団体会員、協賛企業、開催企業紹介のみとさせていただきます
・駐車場は先着 15 台です。当日現地誘導に従って駐車願います　※近隣に有料駐車場はありません
・工場見学時に帽子を着装ください（現地貸出可能ですが、ご持参いただくことを推奨いたします）
・工場内での撮影は一部を除き可能です ※撮影時に引率者へご確認の上、撮影願います
・機関紙等掲載のため、記録撮影（背面・側面撮影）をさせていただきます（NG 申告可）
・喫煙は所定の場所（社員様用スペース共有）にてお願いいたします

【問い合わせ先】
（一社）日本金属プレス工業協会　事務局
MAIL：jmsa@nikkin.or.jp
TEL：03-3433-3730
（当日）担当：伊藤 070-2421-6844

【参考】





＜昼食（弁当等）情報＞
事務局調べですが、ご参考になさってください
①NewDays（コンビニ）
飲料、総菜、軽食の購入が可能です

②駅弁 山崎屋（SAKURA プラザ内）
鱒めしやさけめしなどの駅弁が購入可能です
当日受取予約もできるようですが、詳しくは
直接企業へお問合せください。

③頸城自動車（地図表記無し）
今回の送迎バス運行会社ですが、お弁当の
手配可能とのことです。
詳しくは直接お問い合わせください。
〔電話 025-543-4135 / 受付 8:30-18:00〕
※デジタル閲覧の場合こちらの SharePoint からも
確認いただけます（PASS：jcp）

＜集合場所案内＞
11：40 までにご集合ください
改札を背に左側に向かうと「西口」です
左図の集合場所にお手洗い等をお済ませの上、
ご集合ください。
※トイレは改札内、または改札を出ますと 1 階
にあります。
おタバコを飲まれる方は、新幹線ホームの
喫煙所をご利用ください。（14 号車付近）

新幹線情報（帰路）

上り（東京・新大阪方面）

※目安情報です。詳しくは JR 東日本の HP をご確認ください

17 時	はくたか 572 **12 分** 東京 19：12		
18 時	はくたか 572 **00 分** 東京 20：00		
19 時	はくたか 574 **16 分** 東京 21：16		

下り（金沢・新大阪方面）

※目安情報です。詳しくは JR 東日本の HP、サンダーバード時刻表をご確認ください

17 時	はくたか 569 **15 分** **敦賀 19：18**※1	はくたか 645 **28 分** 金沢 18：25※2	※1 敦賀にてｻﾝﾀﾞｰﾊﾞｰﾄﾞ（大阪行き）へ乗り換え可能 **17：44 発　36 号　＜大阪着 19：07＞** 18：12 発　38 号　＜大阪着 19：37＞ 18：44 発　40 号　＜大阪着 20：09＞ 19：14 発　42 号　＜大阪着 20：38＞ 19：44 発　44 号　＜大阪着 21：09＞ 20：11 発　46 号　＜大阪着 21：34＞ 21：08 発　48 号　＜大阪着 22：31＞ ※2 金沢駅から敦賀駅行き乗換え 18：50 発　つるぎ 43　＜敦賀着 19：32※1＞ 19：57 発　かがやき 513＜敦賀着 20：37※1＞
18 時	はくたか 571 **32 分** 金沢 19：35※2		

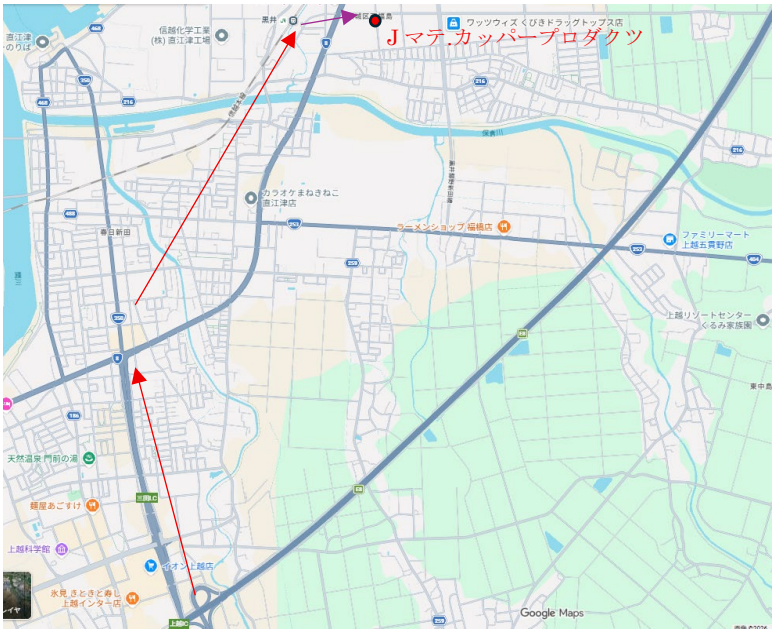
お車でお越しの方へ

ナビゲーションに下記の住所をセットしてお越しください。

Ｊマテ.カッパープロダクツ㈱精機工場
住所：新潟県上越市頸城区西福島 522-2

▼写真の建物を目印にお越しください

▼上越 IC からの地図



講演企業様会社情報

Ｊマテ.カッパープロダクツ　会社紹介

新潟県上越市で銅合金製品を一貫製造するＪマテ. カッパープロダクツは、経済産業省「DX セレクション 2024」で優良事例に選出されました。同社の DX はシステムありきではなく、徹底した現場改善を土台とするのが特徴です。今回は、会社ごとで異なる DX の進捗に参考になる企業組織や進め方、生成 AI と動画マニュアルを活用した技術伝承など、スモールスタートで成果を上げた実践的な DX 事例をご紹介。多額のコストをかけず、まずはスモールスタートで失敗もありながら、泥臭く定着させてきた中小企業ならではのリアルなノウハウを、現場見学を通じて学んでいただきます

■ 山本 耕治：新潟県上越市出身。2022 年 4 月に代表取締役社長就任。前職の経験を活かし、独自のマテ生産方式（改善活動）とデジタル／DX を駆使しながら、業務効率化を陣頭指揮している。

■ 西本 俊介：新潟県上越市出身。2013 年に入社。経営企画室にて会社全体の改善活動を推進している傍ら、DX 推進リーダーとして、IT ベンダーと現場の間で業務・システム改善を調整、提案をしている。

▼Ｊマテ.カッパープロダクツ　精機工場

カワイ精工　会社紹介

新潟県上越市でプラスチック製品の金型製作を手がけるカワイ精工は、製造現場を起点とした DX と AI 活用に取り組んでいます。同社の DX の特徴は、現場と共に業務の課題を見つめ直し、自社で内製しながら改善を積み重ねてきた点です。今回は、カワイ精工が実際に進めてきた DX の取組や、そこから生まれた新たな価値創出の事例に加え、最新の AI エージェントを活用した社内システム開発の実例をご紹介します。限られた人員・コストの中で、どのように業務改善を進め、DX・AI を現場の力に変えてきたのか、試行錯誤や定着の工夫を交えながら、実践的な事例・ノウハウをお伝えします。

■ 川合 忠実：新潟県上越市出身。東京のシステム開発会社でシステムエンジニアとしてキャリアをスタート。カワイ精工入社後は、その経験を活かし社内の DX 化を推進し、新事業の立ち上げを牽引。